

防コミの歩き方

BOSAI
KOBEMIRAI

須磨区の全防コミが集う「須磨区防災福祉コミュニティ大会」

須磨区では毎年、区内21地区の全防コミが集まる防災訓練「須磨区防災福祉コミュニティ大会」を実施しています。今年も10月16日に12回目の大会を開催しました。この大会は、須磨区の防コミが一体となって、住民による自主防災体制の充実と防災意識の高揚を図ることを目的としています。今年は特に東日本大震災を踏まえ、地震と津波の発生を想定した大会初の実践的な総合訓練に取り組むとともに、津波や水害を考慮した「水中歩行体験」を実施しました。

また、大会に先立ち「須磨防災の賞」の授賞式もあわせておこなわれました。

●総合訓練

昨年までの個別訓練の集大成として、1グループ3地区の防コミ48人が一緒になって行動し、消火、救助、救護、避難を一斉におこないました。具体的には、地震発生の想定で訓練リーダーのもと、3地区防コミが集まり整列し、訓練リーダーの号令によりそれぞれ消火班、救護班、救助班に分かれ個々に活動をしました。5分経過後、津波警報発令の想定でそれぞれ活動を中断して一旦全員が集合し、避難場所へと車椅子や簡易担架で避難する所要時間は約10分間の

訓練で、第7グループまで10分おきに順次開始しました。

参加者の中には消防団員や婦人防災安全委員、救急ボランティア、FAST(民間救急講習団体)、防災士等、各地域で活躍されている方々も含まれ、特に消防団員の皆さんは地域のリーダーとして参加し、地域との連携が強化されました。また小中学生の参加も多数見られました。

●体験ブース

水中歩行体験では、大きな長方形のビニールプールに水を張り、長靴を水没させた状態で水中を歩行し、歩きにくさを体験しました。

ほかに地震体験、煙体験のブースが設けられ、これらにあわせて消防車両展示と東日本大震災による津波関連のパネル展示もおこなわれました。

●防コミ大会を振り返って

総合訓練や水中歩行体験など初めての試みが多かった中、防コミと関係者一同の協力により無事終えることができました。多くの反省点を踏まえ、全地区の防コミが一丸となって自主防災体制のさらなる強化を図ってまいります。(須磨消防署 甲斐康之)

